

(別紙様式 小中学校用)

平成21年度指定 新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学校名 いの町立伊野中学校

学校長名 高橋 定利 印

1 研究テーマ

本校の教育課題は「仲間づくり」「学力向上」「教職員の指導力向上」「家庭学習の定着」である。各課題項目についての仔細は下記に記述する。またここ最近では、小学校から引き続いての不登校傾向や原因が心因性による学校嫌い等をベースに怠惰や病気による複合型が多いのが現状である。こうした状況からその個々への対応を職員会や学年会等で情報交換し、関係機関と連携して生徒や保護者への対応にあたってきた。そして生徒の基本的な生活リズムを確立し、心の教育をベースに一人ひとりが主体的に学び、考え、個性の良さを伸ばす教師の指導力を向上する校内研修を計画的に行ってきたが、まだまだ解決していない実態がある。こうした背景には、家庭生活の基盤とともに問題行動への指導ができない家庭環境等に付随した要因があり、学校の指導がとどかない現状もある。こうした課題が本年度も内在し減少しないことが予想されるため、全教職員が一致協力して全校体制で取り組んできた。こうした課題に対して教職員の調整役として、またその方策を企画立案するためのミドルリーダーとして新しい職を活用し課題の克服に努める。

2 研究内容

本校には生徒342名（平成22年5月1日現在）、教職員数は28名（50代8名、40代10名、30代8名、20代2名）であり在職年数も10年以上が24名と経験豊富な中堅教職員が多い。しかしながら、経験から裏付けられた「自己流」を「自分のペース」で貫く傾向がある。学校組織マネジメントの観点から研究体制、生徒指導・学校危機管理体制等の活性化や充実、多忙感や閉塞感等の克服のためにはミドルリーダーの存在が必要であると考えます。

本校は、問題行動等への生徒指導を中心とした「混乱期」から特別活動や生徒会中心の自治が確立した「安定期」を迎えている。表面上では生徒の生活や学習態度も落ち着いている。それは従来からの部活動の活性化や生徒会を中心とした様々な活動や学校行事、地域行事に活躍し大きな成果をあげていることが基盤にある。

さらに20年度からは「発展期」として仲間づくりをキーワードに様々な授業改善や評価システム、開かれた学校づくり等従前の取組の見直しと充実に全教職員とともに懸命に取り組んできた。また地域・保護者からは、全面的な支援と協力とともに生徒たちが安心して生き生きと学び、自己実現できる学校をどう創りあげていくかが求められている。しかしながらここ数年間、学力不振や学年が進むにつれて不登校生徒の増加傾向や内在化、陰湿化した「いじめ」、厳しい生活背景からの「心の揺れ」や自傷行為等への対応など課題も山積しているのが現状である。こうした課題克服の中心的な存在としてミドルリーダーの育成と活用に努めてきた。

3 新しい職の配置による組織体制

組織の改善点や現在の組織体制等（学校組織は別紙）

A：仲間づくり ―生徒理解と不登校生への対応―

21年度から不登校傾向の生徒については十分ではないが学校に登校できるよう改善されてきたのは取組の成果であると捉えている。仲間づくりを中心とした学級経営に努め、お互いが語り合い支えあう集団づくりや

授業改革による生徒自ら学ぶ意欲と態度の育成、家庭との連携を綿密にして生徒の自己理解に努め将来への展望や目的を持って学校生活がおくれるようミドルリーダーを中心に企画立案し、全教職員で対応を協議し生徒や保護者の支援をしてきた。不登校傾向等の課題のある生徒や特別な学習支援を必要とする生徒等に日頃の取組を通して教育内容や相談活動の改善をはかることは勿論、他の課題についても同様に学年全体、全教職員、家庭、地域との連携など協働して取り組んでいる。

B：学力向上 ー少人数学級編成による個に応じた指導体制の充実ー

国語、数学、英語に対しての関心、意欲、態度や言語能力（漢字）は高いものがあるが各教科とも「活用する能力」や国語、英語において書くこと、読む能力に課題があることや数学科では数量と式のような基礎基本の計算力が定着していない面が、数学的な見方や考え方にも影響していることが分析されている。そこで国語科では漢字検定や漢字の書き取りなどから一定の成果は現れているものの作文や日記、読書指導など、読解力や表現できる力を育成すること、英語科では「単語力」、数学科では基本的な計算力を養うために各教科の単元確認テストやドリル形式の課題を繰り返すことや数学的な考え方や数量関係、関数、グラフ等について時間を多くとるなどを行ってきた。

C：教職員の指導力向上 ーミドルリーダーの育成と教職員への支援体制の確立ー

本校の学校経営に参画し教育課題克服のためにリーダー性と協働性をもった模範となるミドルリーダーを育成していきたい。また教職員の意識を改革するためには校内外における研修の場と機会の確保や研修内容・質の向上が重要である。校内研修のあり方の検討を進め、授業研究を中心にして教員の専門性を磨くようにするとともに研修内容の充実の中心的な役割を果たせるよう助言してきた。

4 新しい職の活用状況

①主幹教諭の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等

教諭と同様に授業を担当するとともに、以下の業務を行う。

- ・校務整理、校務分掌間の調整・進行管理
- ・調査・報告書の作成・処理
- ・保護者・地域など外部への対応 等

②指導教諭の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等

教諭と同様に授業を担当するとともに自校や近隣校において、学級経営や教科指導の高い専門性に裏付けられた実践的指導力に基づき、模範となり教員に対する指導・助言（教科指導・学級経営・生徒指導等）を行う。

5 具体的な取組

①新しい組織の運用について ー学校組織マネジメントとOJTー

- ・学校経営部会への参加 …（新規）学校目標、学校体制、教育目標、学期ごとの教育課題等の確認
- ・企画委員会への参加 …（従来）学校行事、学年行事、確認事項、通知等への参加
- ・教科や主任会への参加 …（新規）課題や克服のための進捗状況の把握と助言
- ・模範授業の実施（随時）
- ・研修会への参加

②教育課題克服のための学校での取組について

生徒個々の能力や個性を最大限に伸ばすとともに学習意欲を高める基礎基本の定着や学力向上、いじめや不登校の対応への研究をミドルリーダーを中心として全教職員で行ってきた。こうした取組を統括し企画立案し、プレゼンし、実践していける存在は欠かせないものである。新しい人材を得て育成するとともに学校組織の活性化をはかり教員の意識改革や教育課題を克服してきた。

6 研究の成果

主幹教諭

○これまで教育課程管理は教務主任、文書管理は教頭が担当していたが、教頭にはその他に保護者や地域対応、環境整備等もあり、両者の業務量は膨大であった。組織を活性化させることは大変重要であるが、そのためには新しい職の措置が必要であった。教職員が生徒と向き合うことが一番優先されるべきであり、管理的・指導的な面をもった主幹教諭が新たに配置されることは有意義であるとする。特に中学校ではこれまでの実態として教務主任と生徒指導主任が管理職に準ずるような仕事をしている。本校では教務主任や生徒指導主任を主幹教諭に位置付け、その分の定数が増えれば、教員の多忙感解消にもなり、教員が今まで以上に生徒や保護者に関わっていけることが大きな成果である。

指導教諭

○学校の教育課題克服への力量や教職員間の指導力意識を向上させ「やる気」を起こさせる雰囲気づくりや「教職員の模範」となる教員を配置することが必要である。また教員は様々な役割を持っているが、保護者からは、校長、教頭、それ以外の先生としか見えず、担任がすべてである。保護者は担任の先生にもっと力をつけて欲しいと考えており、それを担う先生がいるのは良いことであり大きな成果と考える。

7 課題の分析と考察

主幹教諭

○校長の学校目標・学校経営目標の具現化において主幹教諭の果たす役割は非常に大きい。しかし、中学校では教師への指導助言、調整役だけではうまくいかないことが多く、教諭より上位の職として取りまとめ、職務を整理する権限（分限）を与えることによりスムーズにいくのではないかと考える。

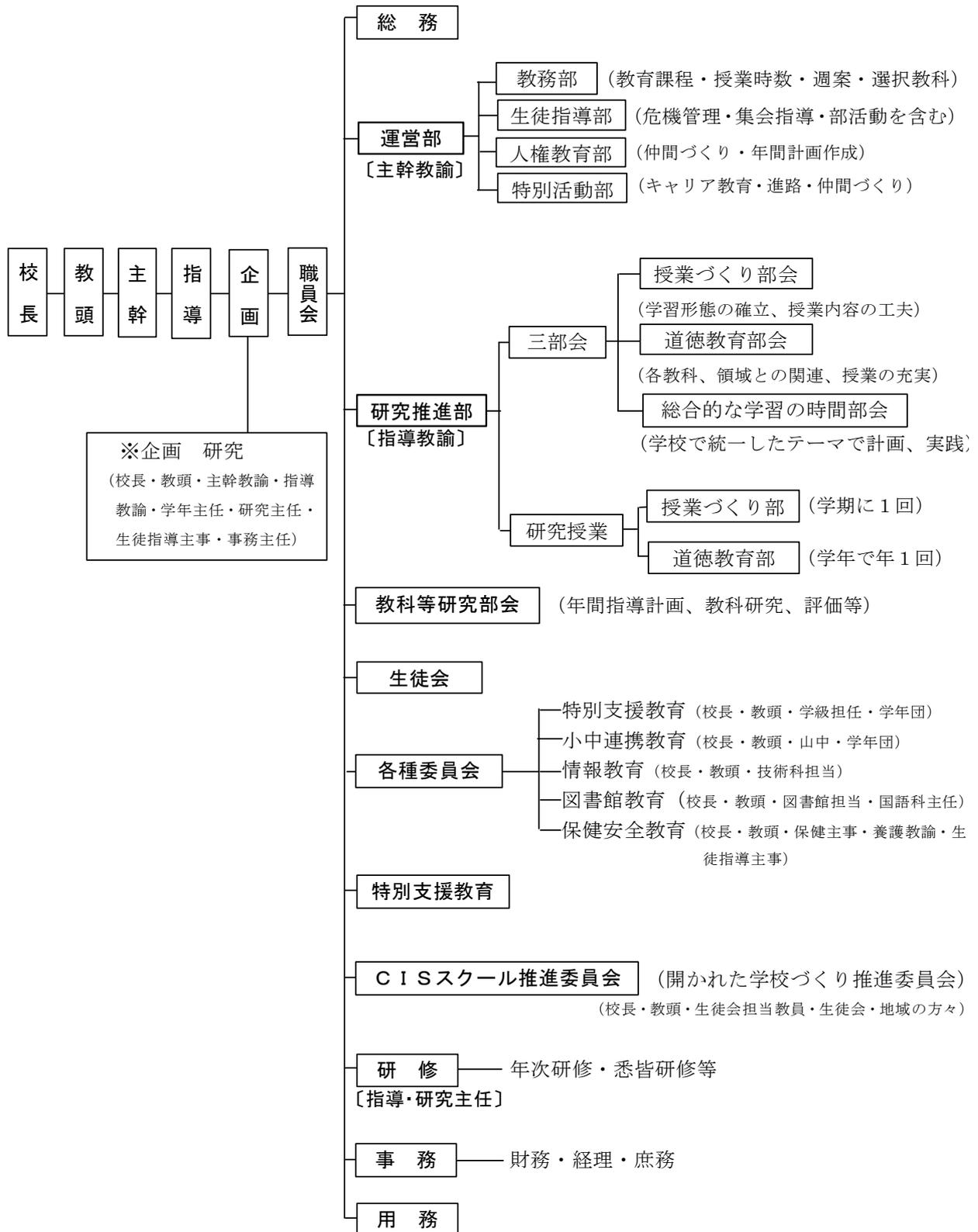
指導教諭

○指導教諭の配置は、教員の指導力を高めるうえで大変有意義であり、将来的には全ての学校に配置されるべきである。

○指導教諭については自校の教育課題に対する専門性や校区の課題（小中の連携）や地域性、教科のバランスを考慮しながら配置していく必要がある。

※各欄は、必要に応じて広げてください。

平成22年度の学校組織



部会名	構成	研究内容	研修日
企画委員会	校長、教頭 主幹・指導教諭 各学年主任 生徒指導主事 事務主任	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、学年、生徒会行事案等の検討 ・学年会への週知事項 ・研究構想案の検討 ・各部会、各研究会の報告、連絡調整 ・生徒指導等情報収集及び教育諸調査 等 	月曜日
運営部 ・教務部 ・生徒指導部 ・人権教育部 ・特別活動部	校長、教頭 主幹・指導教諭 各学年主任 研究主任 生徒指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成と運営 ※時間割の作成 ※各行事や長期休業中の校内研究の日程調整と作成 ・危機管理の徹底、集会指導や部活指導の充実 ・仲間づくりと年間計画の作成 ・キャリア教育の推進と進路年間計画の作成 ・充実した学級経営の在り方の研究等 	随時
学年会 (学年研修会)	各学年担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・学年行事案の検討 ・企画委員会からの提案事項協議 ・教科、道徳、人権、特活の研究授業 ・地域、家庭との連携 	火曜日 随時
校内研修会	指導教諭 全教員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課題の確認 ・課題克服のための検討 ・公開授業研修 ・理論や実践研究 ・研究成果のまとめ 	水曜日 4週に1回
研究推進部	指導教諭 研究主任 管理職 各部長 全教員	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の計画と推進 ※授業づくり部会 ※道徳教育部会 ※総合的な学習部会 	部長会 (校内研修) 水曜日 4週に1回
教科等研究部会	指導教諭 各教科担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成 ・仲間づくりからの授業改革 ・わかる、楽しい授業内容の創造 ・評価基準の見直し ・授業評価システムの活用 	水曜日 4週に1回
各種教育部会	主幹・指導教諭 指導担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・行事計画の立案、運営、評価 ・教育内容の創造 ※障害児・特別支援教育 ※小中連携教育 ※図書館教育 ※保健安全教育 	随時

